

令和5年3月9日

伊勢原市長 高山 松太郎 殿

伊勢原市環境対策審議会
会長 杉山 立志

第3次伊勢原市環境基本計画について（答申）

令和4年8月18日付け伊環境第27号で諮問のありましたこのことについて、次のとおり答申します。

1 審議の結果

第3次伊勢原市環境基本計画について、本審議会では専門的知見や多様な視点から慎重に審議を重ねた結果、本計画では、地球温暖化対策を始めとした各目標における指標等が明確に示されており、また、環境保全において必要と考えられる施策等が包括的に設けられていること等から、計画の内容について概ね妥当なものと認めます。

前計画である第二次伊勢原市環境基本計画の策定から9年が経過しており、この間、国の2050年カーボンニュートラル宣言に伴う再生可能エネルギーへの大幅なシフトチェンジ、SDGsを踏まえた持続可能な社会の実現に向けた意識の変化、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の浸透等、環境政策を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、こうした変化に適切に対応しながら、環境の保全等のための個別の施策を総合的、計画的に推進していく必要があります。

本計画で新たに掲げた目指すべき環境像「自然の恵みをみんなでつなぐ 持続可能なまちいせはら」の実現、そして取組の柱におけるそれぞれの目標達成に向けては、市民、事業者、行政が協働しつつも、各主体の自主的な行動が極めて重要であるとの認識のもとに、総合的な環境政策を推進するための個別の意見や留意すべき事項について付しますので、その趣旨が十分に尊重されることを要望します。

2 意見

(1) 大目標1 カーボンニュートラルの推進

- 本計画では、2050年「ゼロカーボンシティいせはら」の実現に向け、

2030年における二酸化炭素排出削減目標を2013年度比で46%削減としています。削減目標の達成にあたっては、市内の再生可能エネルギーポテンシャルの最大限活用とエネルギーの地産地消の推進が必要であると考えます。市民、事業者と密に連携し、達成状況を明確にしながら、普及に係る取組を進めていくことを要望します。

また、施策ごとの二酸化炭素排出の削減効果を十分に分析した上で、優先順位を付けた上で取組を進めることを要望します。

- 各主体が積極的に二酸化炭素の排出削減に向けた省エネや再生可能エネルギー導入等に取り組めるよう、行政としても脱炭素に係る新しい技術や他地域における取組の情報収集に努めるとともに、各主体に対する適切な支援や情報提供を継続的に行うよう要望します。
- 気候変動への適応については、国の影響評価に加え、本市の地域特性を十分に考慮した上で、気候変動の影響や被害の状況を定期的に調査し、将来における影響を回避・軽減できるような適切な施策を講じていくことを要望します。

(2) 大目標2 循環型社会の構築

- 製品プラスチックや食品ロスの削減等の新たな課題への対応についても積極的に検討を進め、更なるごみの減量化及び資源化の推進に取り組まれることを要望します。

(3) 大目標3 快適な生活環境の保全

- 「住み続けたいまち」の実現に向け、環境リスクの生じるような、農薬や化学物質の使用低減の推進に取り組まれるよう要望します。
- 緑地による大気の浄化作用等に期待すべく、現状の把握に努めるとともに、適切な緑地の保全に取り組まれるよう要望します。

(4) 大目標4 豊かな自然環境との共生

- 本市において、農業は主要な産業である一方、農業従事者の人手不足等の課題も年々顕在化しています。環境保全の視点からも、本市の農業従事者の一助となるような施策の推進を要望します。
- 農畜産物の地産地消が進むよう、地域と連携しながら、販売場所等に関する情報提供を積極的に行うとともに、イベントや動画等による幅広い周知啓発等を行うことを要望します。
- 二酸化炭素の吸収や生物多様性の保全等において、本市の豊富な森林資源

が有効活用されることを要望します。

(5) 大目標5 次世代を担う人づくり

- 2050年の中長期を見据えたとき、継続的に環境学習を行うことは、次の世代へ環境に対する課題や問題意識等を継承し、意識を醸成していくことにつながります。幅広い世代、特に若年層が環境学習に主体的に取り組めるよう、体験型とオンラインを組み合わせる等の新しい学習環境の提供と、興味を持ってもらえるような時代に合わせたメニュー開発の検討を要望します。

(6) 全体を通じて

- 各主体の自主的な環境保全に係る取組が進むよう、行政として適切な情報発信等に努めることを要望します。
- 本計画は、概ね5年ごとに見直しを図るとされていますが、計画の見直しにあたっては、取組の成果と課題を明確にするとともに、環境行政に対する市民意識を定期的かつ的確に把握するように努め、随時施策等に反映していくよう要望します。
- 計画内容の構成や進捗状況に関しては、必要に応じて図や写真等を用い、市民や事業者に対して分かりやすいものとなるように工夫することを要望します。
- 本計画は、他の計画との関連が多く見られることから、市全体として本計画の推進に取り組む体制を明確にし、目指す環境像の実現に向けた着実な進行管理を図るよう要望します。

伊勢原市環境対策審議会委員

役職	氏名	選任種別	備考
会長	杉山 立志	学識経験者	東京農業大学農学部准教授
副会長	武蔵 郁夫	市内公共的団体	伊勢原市自治会連合会 理事
委員	藤本 隆文	公募市民	市民公募
委員	南澤 倫子	公募市民	市民公募
委員	宮垣 弘子	市内公共的団体	伊勢原市商工会 女性部 監事
委員	濱田 順子	市内公共的団体	いせはら環境ネットワーク 会員
委員	小宮 章裕	市内公共的団体	湘南農業協同組合 企画管理部長
委員	河内 基之	市内事業者	伊勢原地区環境保全連絡協議会 顧問 (株式会社アマダ)
委員	木村 秀昭	市内事業者	神奈川中央交通西株式会社 伊勢原営業所長
委員	大木 俊雄	市内事業者	日産自動車株式会社テクニカルセンター R&D 総務・ファシリティマネジメントグループ 主担
委員	立道 昌幸	学識経験者	東海大学医学部教授 (基盤診療学系衛生学公衆衛生学)
委員	新谷 聡之	学識経験者	神奈川県自然環境保全センター 自然再生企画 課長